

愛知の海洋汚染 の実態把握

愛知県による海洋プラスチック
ごみ対策の促進に向けて



第4グループ

藤井 和喜(前半発表)

眞野 祥典(後半発表)

林 典子(補足・質疑)

後藤 夏樹(資料作成・本日欠席)

世界の海洋汚染について

1 国際的な動き（G20大阪サミット/6月28～29日）

- 「G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組」が策定(注1)

2 マイクロプラスチックの問題点

- 生態系への影響が懸念
- POPs（残留性有機汚染物質/PCB等）を吸着し、
生物濃縮により人への有害な影響を及ぼしている可能性
- 海洋汚染を放置すれば、不可逆的で取り返しのつかない事態となるおそれ

3 マイクロプラスチックの生成（汚染）過程と対策例

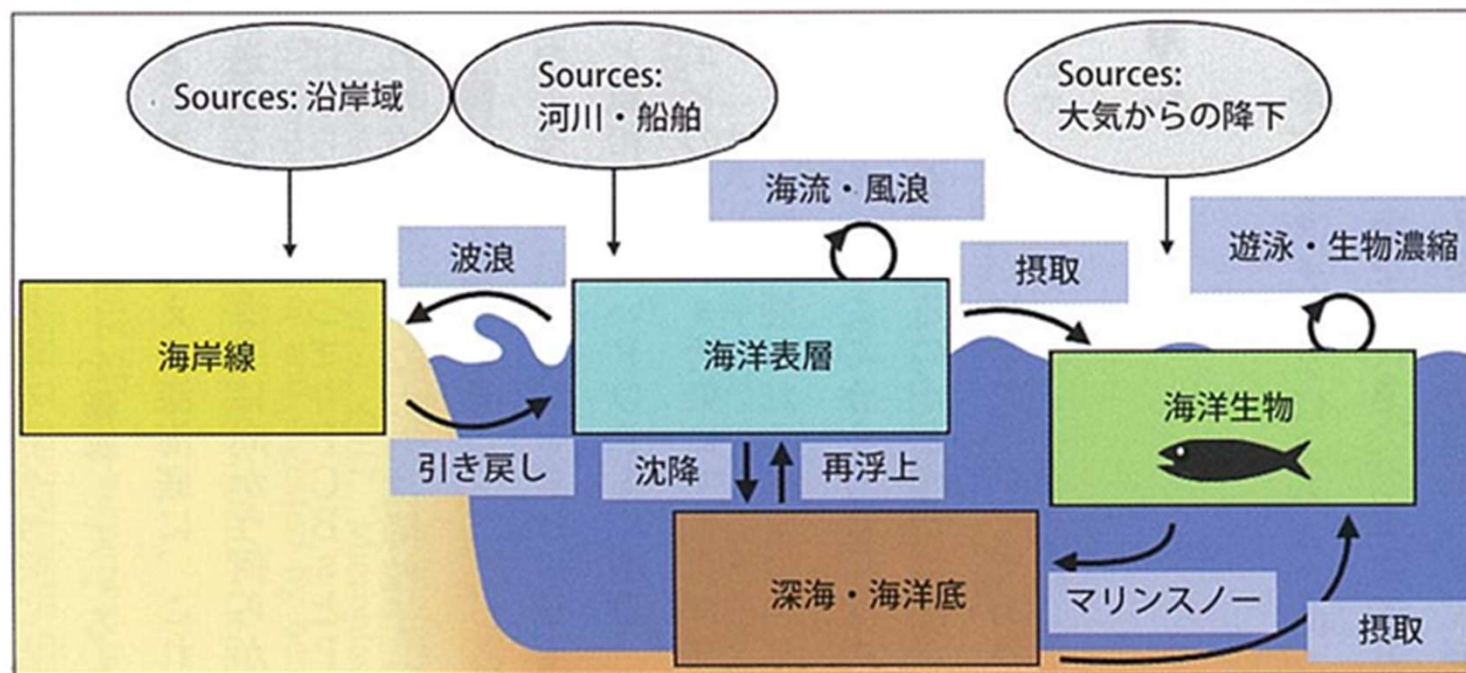
<一次的マイクロプラスチック（製品由来のもの）>

- マイクロビーズ等が排水溝等を通じて自然環境中に流出

⇒製造・流通・販売等の規制が必要（米国、カナダ、フランス、英国等で規制を実施）

<二次的マイクロプラスチック（プラスチックごみ等が破碎・細分化したもの）>

- プラスチックごみが破碎・細分化
 - 漂流と海岸漂着を繰り返すことでマイクロプラスチックが生成し海洋汚染が進行
- ⇒海岸ごみ（破碎・細分化する前のプラスチック）を除去するための取組が必要（注2）



愛知県近海の海洋汚染について

1 環境省による実態把握調査

- 漂着ペットボトルのモニタリング調査を全国10地点（愛知県は含まない）で実施。外国製ペットボトルが日本海側で多い傾向（8割以上を占める地点あり）、日本製ペットボトルが太平洋側でやや多い傾向（内海では5～7割を占める地点あり）がみられた。（注3）
- 日本周辺の沖合海域で全体的にマイクロプラスチックが分布。東北の日本海側及び太平洋側、四国及び九州の太平洋の沖合で高い密度を占める傾向がみられた。（注3）

2 愛知県近海の海洋汚染状況（推定）

- 愛知県近海（太平洋側、内海）の汚染原因
主に日本製ごみ（中部地域から流出したもの）である可能性
 - 沖合に比べマイクロプラスチックの分布が少ない傾向
- ⇔沖合のマイクロプラスチック汚染原因が、愛知県近海からの漂流である可能性もあり

愛知県における海洋汚染対策、実態把握の状況

1 愛知県における海岸漂着物対策

- 愛知県海岸漂着物対策推進計画を策定

- 19の海岸を重点区域に指定

⇒海岸における良好な景観、海岸漂着物の円滑な処理・発生抑制を促進

- 海岸漂着物対策推進協議会を年1～2回開催

2 海岸汚染の実態把握

- 計画策定（改定）時に海岸漂着物の現状を把握（国等の調査、市町村アンケート調査、現地調査等）

- 2020年度からは毎年、調査を実施する方向で準備中（注4）

- マイクロプラスチックの実態を把握するための調査は実施されていない

愛知県の海洋汚染実態把握に係る課題

- 現在までに行われた、或いは計画されている調査は、『**海岸漂着物**』に対する調査のみで、『**海洋プラスチックごみ**』の調査とは微妙に趣旨がずれている。
⇒ 実質的に『海洋プラスチックごみ』に関するデータは無い
- 調査及び調査結果の分析は散発的にしか行われておらず、対策活動による効果を統計的に評価できるような**経時的、定点的なデータが無い**。
 - 2020年度からは実施予定(2.5cm以上の**海岸漂着物**の調査)
- 従来の水質汚染の評価指標である生態系への調査は希少種の除き、環境研究センター（愛知県環境局）・水産試験場（愛知県農林水産局）でも**マイクロプラスチックが生態系に及ぼす影響についての試験・研究が無く、人類・地域生物への影響が把握できない**。
⇒ 海洋生態系への影響が分からず、不安ばかりが募る

愛知県に対する3つの具体的提案

①愛知県独自の調査ガイドラインの策定

②5月の海ゴミゼロウィークの活用

③Seabinの導入・活用



ご清聴ありがとうございました

参考資料

注1 : G20大阪首脳宣言、外務省、2019年6月、https://www.g20.org/pdf/documents/jp/FINAL_G20_Osaka_Leaders_Declaration.pdf

注2 : 海洋におけるプラスチックの循環モード図/「海と人の関係学②海の生物多様性を守るために」より

注3 : プラスチック取り巻く国内外の状況、環境省、2018年6月 <http://www.env.go.jp/council/03recycle/y0312-01/y031201-2x.pdf>

注4 : 愛知県資源循環推進課一般廃棄物G聞き取り、愛知県庁、2019年7月